

Volunteer

私のボランティア初体験

第77回



特定非営利活動法人
「W・I・N・G一路をはこぶ」
代表理事

菅野 真弓

35年前を懸命にたどってみると、初めてのボランティアが「絵」としてはよみがえるのに文字にできない。できない理由をさがした時、この初めての出会いが私にとってあまりに衝撃的で、担当すべきその「男の子」を知った時、すでに大学1年の私は自分の行為を意識するということができなくなっていたのだった。

初めて出会った障害児が、重症心身障害児といわれる人たちだった。70年安保闘争、ベトナム反戦運動と毎日どこかで学生集会がありデモがある。障害者社会的弱者。弱者を置き去りにしている体制に立ち向かう活動として私の中にボランティア活動は位置づけられていた。したがって私のボランティア活動は、安保闘争や反戦運動の集会、デモに参加しているのに近い感覚のものだった。が…

現実には残酷だった。そんなご大層な私の思いなどは関係なく、「トイレだ」「お茶だ」「着替えなきゃ」「顔ふかなきゃ」と考える間もなく身辺介護が迫ってくる。でも重い障害を持つ人は簡単に初心者の方に心など

開いてくれはしない。介護などさせてくれない。施設の指導員からは、あれこれ指示を受けるのだけれどこなせない。

初めてのボランティアは京都府立植物園だった。おやつアイススクリーム。まずコートのアイススクリームをそのまま口へ。が、彼は何の反応もみせない。あれっ？どうして？早く食べないと溶けてしまふのに…。

「何とか食べさせなきゃ」と焦る私。平然としていた彼。スプーン使っただけで舌先にもなくアイススクリームがこぼれてくる。彼の口元からだけでなく、私の手元のアイススクリームも流れ出す。「どうしたらいいの？」泣きべそをかき私は「できません」と指導員になきついた。が、指導員は「指があるでしょ！」「え？指を使うの？」と私は狼狽したのだが、当時、指導員は優しく教えてくれる余裕などなかったのだ。

「お願い飲み込んで」。指でアイススクリームを食べさせたのだが、指導員は「指をもつと奥へ！」。ついに彼の口元、私の手元はアイススクリームでベトベト…。

profile

すがの まゆみ

1951年仙台市生まれ。大学卒業後、知的障害者入所施設に就職。退職後の92年、重症心身障害者の地域生活支援を目指し、日中活動の場「デーセンター夢飛行」を、01年には「特定非営利活動法人W・I・N・G一路をはこぶ」、「社会福祉法人ゆうのゆう」の設立に参加する。国際交流事業（韓独仏豪加など）、地域交流事業（フリースペースの運営）なども展開しながら模索の日々。好きなもの⇒宝塚歌劇、浜田省吾、ハン・ソッキュ、紫色…